

新学年が始まりました ～1年後の君はどんな君？～

令和2年度がスタートしました。まずは、進級・入学おめでとうございます。

みなさんは、今新しい学年のスタートラインに立ったところです。みなさんの心の中には、「この一年をこんなふうに過ごしたい」「こんなことをやってみたい」「こんなことができるようになりたい」「自分をこんなふうに変えてみたい」など、いろいろな目標、理想、夢が思い描かれていると思います。このような目標、理想、夢をもつことは、とても大事なことだと思うのです。

もしもしカメよ、カメさんよ・・・

イソップ童話の「ウサギとカメ」の話は知っていますね。ある時、ウサギに歩みの鈍さをバカにされたカメは、山のふもとまでかけっこの勝負を挑みます。かけっこを始めると予想通りウサギはどんどん先へ行き、とうとうカメが見えなくなってしまいます。そこでウサギは少しカメを待とうと余裕綽々で居眠りを始めたのです。その間にカメは着実に進み、ウサギが目を覚ましたとき見たものは、山のふもとのゴールで大喜びをするカメの姿だったのです。



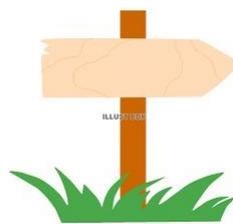
この物語はどんなことを示しているのでしょうか。「自分の力を過信して思い上がり油断をすると物事を逃してしまう」ともとらえることができます。また「能力が弱く、歩みが遅くとも、脇道にそれず、こつこつと着実に進むことで、最終的に大きな成果を得ることができる」と考えることもできます。

さらにこんな考え方もできると思います。それは「ウサギはカメを見ていたけれど、カメはゴールを見ていた」ということです。

ウサギは、カメを見ていた。だから、ノロノロとやってこないカメに、油断をしてしまったのです。一方カメはゴールすることを目標に歩みを進めていたのです。もし、カメがウサギを見ていたら、昼寝をしているウサギを見て、自分も休んでしまったかもしれません。ところが、カメはそうしなかった。ゴールを見ていたからです。

つまり、このかけっこのゴール、言い換えれば目標は何かをしっかりと見極め、競争相手に惑わされることなく、目標をしっかりと見続けることが大切だ、ということです。カメは目標をしっかりと見ていたから、歩みは遅かったけれど、足の速いウサギに勝てた。「しっかりとした目標があった」から、この結果が生まれたのです。

海原に船出する場合、どこに向かうか決めないで船を出すと、漂流するか難破してしまいます。「自分をこんなふうに変えたい」「こんなふうになりたい」「こんなことをやってみたい」といった夢や目標をもつことは、これから自分が人生を歩んでいくうえでの『道しるべ』になると思います。半年後、一年後、数年後・・・の自分の姿を思い描き、ぜひ自分自身の『道しるべ』にしてください。



今年度もこの「あしあと」を定期的に発行していきたいと思っています。よろしくお願いします。

